



この冊子が皆さまに届くころは猛暑になっているかもしれません。そこで今回はエネルギーを減らしながら夏を快適に過ごすお話。

エアコンが日射の位置などを感知して冷風を送るといったCMでは、大きなテラス窓から直射の降り注ぐソファや、まどろむ女優の杏ちゃんに気持ちよさそうです。このテラス窓から察するに4000W(3400kWh)くらいの日射熱が室内に入ってきています。これは私の設計する住宅で真冬にセントラルヒーティング全開運転になっている時と同じくらいの熱量ですので、夏に思いつき暖房しながら冷房運転していることになりません。もし室内に日射の熱を入れない、溜めない工夫をすればエアコンの能力を1/3、或いはそれ以上減らし、さらに快適になります。

第一のポイントは窓の外側で直射熱を遮ることです。以前歯科クリニックの設計を依頼された時のこと。ビルの一階で西日が厳しく、既存のエアコン1台では足りず2台増設が必要でしたが、あえてそのまま初めての夏を迎えました。いよいよ暑くなってきた時

3.11事故後の食の安全
本日の事を、知りたい
測りたい!

Eat Safe, Live Safe.

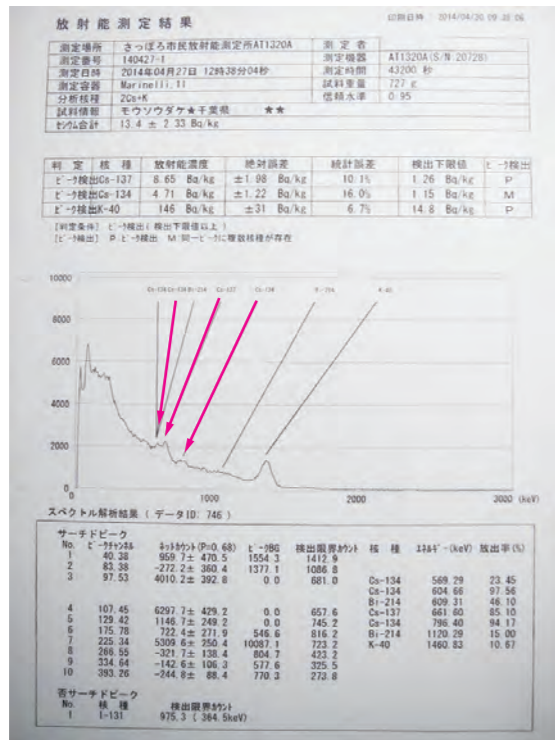
はかーる・さっぽろによる
日々の計測データと
それにまつわる四方山話。

[今月のThe計測]

前回は過去のセシウム汚染の残留の話をしました。では福島原発事故によるセシウム汚染はどの程度検出されているのでしょうか？

はかーるで測定を開始した二〇一二年五月以来の食品、土壌、その他の全測定のうち、スペクトルデータからセシウム・ピークの有無を判定できる程度の精度があるものは600検体以上ですが、そのうち400検体以上が放射能検出(ND)、ただし自然放射能力リウム40を除く、他にカリウム40および鉛214などの自然放射能の影響が強く、不検出の確定にはゲルマニウム(Ge)測定器での再測定が必要ではあるけれど測定データにセシウムのピークが見られずNDに準ずると判定したものが約100検体あります。

また、低いセシウムピークは確認できるものの、自然放射能の影響が強く信頼できる放射能濃度を決定し難い検体が50ほどあり、これらは主に土壌検体ですが、前回の例のような食品も10検体含まれます。そのうち幾つかはGe測定器で再測定したところセシウム137のみが検出され、福島事故以前



のセシウムと判断されるものでした。残りの、土壌10検体(前回参照)1検体追加、食品31検体から明確なセシウム検出がありました。とはいえず、食品では10ベクレル(Bq)/kgを超えたものは8検体のみ(最高値28.6Bq/kg)で、5~10Bq/kgが11検体、5Bq/kg以下の12検体です。原産地が特定の例外のほかは全て東北南部・北関東の産品でした。

安全性の証拠の裏付けのない国の食品放射能基準値100Bq/kgという数値を基準に安全性を考えると私は賛成できませんが、一方では道内に暮らして触れる食品の状況がこの程度であるということは広く知られ

るべきことではないかと感じます。その上で、数値をどう判断するのかは、低レベル放射線による内部被曝の影響について十分な研究がない現状では、どんな学者も政治家も責任ある回答はできず、各自が情報を集めて判断するしかないと考えます。

5Bq/kg以上のセシウムを検出した検体は、福島県産モモ、ナシ、リンゴ、群馬県産ユズ、茨城県産レンコン(各1検体)、千葉県産モウソウタケ(2検体)、茨城県産干し芋(3検体)、道産マダラ(2検体)、道産原木シイタケ(4検体)です。(ほか欧州産キノコ3検体)とはいえず、これらと同産地の品目でもNDの検体もありますし、上記の福島県

また、複数の検体から検出されたものは、要注意食品として集中的に測定したこともあり測った数自体も多いのですが、他の食品に比べれば汚染が検出される頻度が高いのも経験的事実です。

福島県産流通品の汚染が低下してきているのに比べ、これら特定の食品からは依然、ときに100Bq/kgを超える程度の検出が見られることも、注意が必要と思われるます。

文責

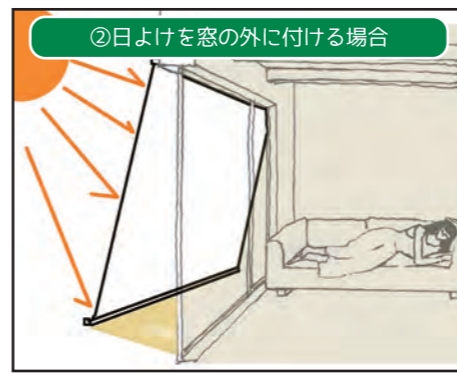
はかーる・さっぽろスタッフ
竹ノ内研司
<http://yaplog.jp/sapporosokutei/>

facebook

さっぽろ市民放射能測定所『はかーる・さっぽろ』の活動状況は、Facebookでも公開しています。

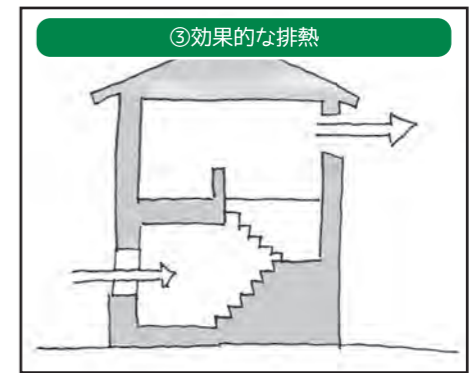


①CMに出てくる室内には、最大4000Wくらいの熱が入ってきます。その中で強力なエアコンの冷気にあたって快適にはなりません。



②遮熱性の高いスクリーンを窓外に取り付けると、熱はほぼ室内に入りません。排熱もうまくいけばエアコンへの依存はぐんと減ります。

③建物で一番高い窓と低い窓をあけることで、家の中にこもった熱を速やかに排出することが大切です。



に、こっそりあるものを取り付けて完全に解決しました。あるものとは日本では昔からある「すだれ」です。建物を開放的にして風を通しながらも、日射熱を入れない素晴らしい生活の知恵です。

第二のポイントは排熱、つまり熱をためないことです。窓をやみくもに開けるのではなく、建物で一番高い窓と低い窓をあけることで、家の中の熱気を排出します。二階建の住宅であれば、二階の一番高い窓と、室内の扉などを開け放ち一階のどこかを開ければ熱気は自然と排出されます。高い窓から外に向けて扇風機を回すとさらに効果的です。このような工夫をちよっとすることで快適さはガラッと変わります。

An estate agent

志洋商事 株式会社

SHIHIRO, Incorporated

札幌市東区伏古11条1-3-2
Tel 011-782-5561
北海道知事免許 石狩(3)6635号